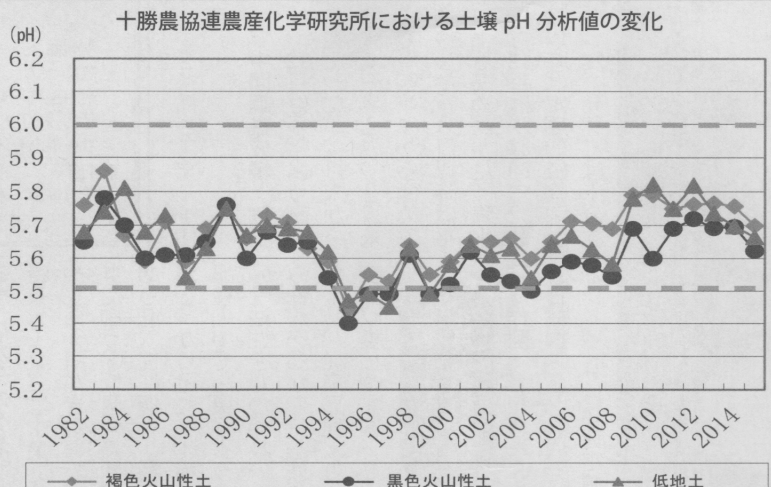
きるとした。

第二段階の地力を発現する技術としては基盤整備、土層改良、土壌改良が含まれる。基盤整備には風食・湿害・干害の防止が、土層改良には混層耕・心土肥培耕・改良反転客土が、土壌改良には酸性改良・アルミニウム活性の抑制・有機質資材の投入などが行われる。

第三段階の地力を発現する技術としては施肥管理（作物が必要とする施肥を行う）、有機物管理（有機物や緑肥による肥沃度維持）、作付体系（輪作による連作障害の防止）が含まれる。

各農家が土づくりに取り組むにあたっては、土壌診断を行って圃場の改良目標を明らかにすることが望ましい。土壌診断を行っている事業所は多くあるが、それぞれの地域の立地条件や土壌の種類をよく把握している事業所に依頼することが望ましい。土壌診断の結果の解釈方法はこれらの条件によって異なってくるからである。



複雑な土壌の分類

土壌の分類は複雑であるが、地域に限ればそれほど多くの種類があるわけではなく、個々の農家は圃場がどのような地形区分に属するかがわかれば土壌の分類も決まってくる。

例えば十勝農協連農産化学研究所では、十勝地域に分布する三種類の土壌（黒色火山性土、褐色火山性土、低地土）に対応した土壌診断を行っている。

この土壌分類はもともと北海道農業試験場が行っていた土壌分類に基づいており、最新のものではないが、長年にわた